

S A J I C A ブランドの発展と インテリア大学の設置が夢

木下木芸

木下 正人さん

今回の夢追い人は、先月の福岡天神にて開かれた、大川インテリア塾2007イムズ展で、ユニークな作品を出品されていた、木下木芸の木下正人さん。父は木下建具(有)の木下久馬人氏。

木下正人さんの組子技術には定評がある。華胥の夢博で、何度も最高賞を取っている、木下建具(有)の作品の中で、組子部分は正人さんが担当しているのだ。十八歳から二十六歳まで建具業が盛んな栃木県鹿沼

市で建具、特に、組子の修行をした。大川に戻って木下木芸を立ち上げてからも研鑽を重ねて来た。現在大川インテリア塾生またSAJICAブランドメンバー八人の一人としても活躍されている。

今、力を入れている製品は何だろうか。建具と家具のコラボ製品である。中国などの家具に対抗する付加価値を持った、製品作りを目指している。

「これまで大川では、同じ木工業でありながら、接点がなかつ

たのが家具と建具です。機械を使う家具生産と違って、建具の場合職人の技術に依存している部分が大きく、その技術は決してマネのできる分野ではないと思います。ですから、建具の技術を反映させた家具を作れば、マネのできない付加価値の高い魅力的な製品ができると考えています。大川インテリア塾2007イムズ展に出品したのはそうしたものです」

そして木下さんは文字通りのコラボ、つまり家具企業と

国際見本市「プラネット・ムーブル・パリ」での組子の実演の様子



国際見本市「プラネット・ムーブル・パリ」に出展した作品



組子テーブル

組子の伝統的な雰囲気や現代の生活への新しい提案。天板のガラス越しに床に映る組子の模様美しい。ソファと組み合わせての使用が可能



二三行灯

設えの場のある組子細工の行灯



スタッキングライト

使う人の生活スタイルに合わせて、寛ぐ環境(低い)をベースに、スタックすることで動環境(高い)にも対応、5つまでスタックが可能



二三行灯

設えの場のある組子細工の行灯



大川インテリア塾2007イムズ展
に出品をした作品

建具と家具のコラボ作品

建具企業が連携し、分業でそうした製品を作っていくければと願っている。両者が恩恵にあずかることになるからだ。たとえば、前板は建具で、箱の部分と販売ルートは家具企業でといった具合である。それぞれ得意な分野を活かせばよいのだ。

地元木工業の産地全体の発展には、特別強い思い入れがある。「大川で生まれ育ったこともありません。それにも産地がなくなったら...と考えるのです。木工関係企業は単独では決してやっていけないと思うのです。逆に家具、建具、木材、運送、い草などが一つの共同体として、一致して物事に取り組みばすごい成果が生まれるのではないのでしょうか。みんなの思いが一つになればと思いますね！」

産地の活性化を考え、木下さんは組子技術の継承に力を入れている。通常この技術は徒弟制度の中だけで、一般に公開されず、継承されてきた。しかし、木下さんの考えは少し異なっている。「こうした技術が途絶えれば、産地として魅力がなくな

ります。この点で閉鎖的であれば、自分たちの首を絞めることになると思うんです。」それで、いろいろなところに向いてその技術を教えることを心がけている。大川樟風高校には年に数回特別講師として出向く。インテリア塾の仲間にもそうした技術を快く教えている。展示会での組子実演も引き受けている。すべて「産地の活性化に役立てば...！」との思いからである。

嬉しそうに語ってく、ださったことがあった。それは業種を越えて、次代を担う後継者たちとの集いを計画できたことである。これまでなかった試みである。建具、工業会、ツキ板、木工関係企業の後継者達と親睦の機会を持つ。手始めに花見を行うそうだ。木下さんは「これからは異業種間の交流が大切」と考えている。

これからの夢を聞いてみた。二つの点を語られた。

一月にS A J I C Aブランド製品を国際見本市「プラネット・ムーブル・パリ」に出品する

ことが出来ました。九州大学、大川商工会議所、自治体、著名なデザイナーとの連携で開発してきた製品が、技術の面で高い評価を得ることが出来き、本当に励みを得られました。来年はさらに製品のレベルを上げて、広く世界に通用するブランドに向け、がんばりたいですね。もう一つの希望は、建具を含めたインテリア大学の設置です。インテリア塾に参加してその思いを一層強くしました。そうした教育機関が出来れば、全国から生徒が集まります。仮に卒業生が大川に残らなくても、産地としての大川のすばらしさ、木工に関し何でも揃う・作れる特性を認識できるはずで。彼らが困ったときには必ず大川に仕事を依頼することになると思うのです。」

S A J I C Aブランドの発展とインテリア大学の設置が夢である。そしてもちろん産地全体の発展も...。熱い思いが伝わってきた。